

2020年 7月 14日

臨床データ利用のお願い

海南病院では、以下の研究を実施しています。本研究の対象者に該当する可能性のある方で、カルテ情報を研究目的に利用されることをご希望されない場合などお問い合わせがありましたら、お手数ですが以下の問い合わせ先にご連絡ください。

1. 研究課題名

上部尿路結石症に対する経尿道的尿路結石碎石術の治療成績および周術期合併症に関する後方視的研究

2. 研究責任者

海南病院泌尿器科 窪田 裕樹

3. 研究の対象

上部尿路結石症に対して経尿道的尿路結石碎石術を施行した症例を対象とします。

4. 研究目的

上部尿路結石症疾患は、本邦において男性7人に一人、女性15人に1人が罹患する比較的頻度が高い疾患であるとともに、5年で45%が再発するという特徴をもつため、一度罹患した患者は生涯に渡って複数回の治療を受ける可能性があります。一方でその治療には自然排石、薬剤促進療法、体外衝撃波(Extracorporeal Shock Wave Lithotomy; ESWL)、経尿道的尿路結石碎石術(Transurethral Ureteral Lithotomy:TUL)、経皮的腎碎石術(Percutaneous nephrolithotomy:PNL)、開腹・腹腔鏡下尿管腎切石術と多くの治療選択肢があります。本邦においては近年の医療機器と技術の進歩に伴い尿管鏡(内視鏡)を用いたTULが増加しています。TULは各施設において比較的導入し易く、良い手術術式であるが、各施設独自のやり方で手術を行っているのが現状であり、標準術式として確立していないだけでなく、手術合併症の種類、頻度も変化してきていると考えられます。本研究では、この上部尿路結石症疾患に対する経尿道的尿路結石碎石術の日本の現状を明らかにするため、手術成績および合併症のデータを集積します。

5. 研究に用いる試料・情報の種類

- ・患者背景：性別、年齢、身長、体重
- ・画像検査の結果：手術前水腎症の有無、手術前尿管ステント留置の有無、尿路結石部位、結石サイズ(最大長径)、結石の硬さ(CT値:HU)、尿管狭窄症に対する治療方法

- ・入院期間日数
- ・尿管ステント抜去時期
- ・術後経過観察時期

6. 外部への試料・情報の提供

外部研究機関へのデータの提供は、匿名化された状態で行います。

7. 個人情報の取扱い

貴重な患者さんの個人情報は、「個人情報保護法」及び「人を対象とする医学系研究に関する倫理指針」など各種法令に基づいて管理します。また、研究成果は学会や学術雑誌で発表されますが、その際も患者さんを特定できる個人情報は利用しません。

8. 問い合わせ先・相談窓口

JA 愛知厚生連 海南病院 泌尿器科 窪田 裕樹
電話：0567-65-2511（代表）